

KYOTO CITY NEWS

北庁舎など新市庁舎の特色をご紹介

市民が安心・安全に暮らせる 防災拠点としての機能の強化

Strengthened Functions as the
Center for Disaster Prevention

本庁舎、西庁舎及び北庁舎の三棟一体免震化を行うことにより、すべての庁舎で地震に強い構造を確保しました。

完成した北庁舎に現状と別系統の高圧回線を引き込むことにより、高圧2回線による本庁舎、西庁舎及び北庁舎における供給電源の多重化を実現するほか、連絡通路を介して分庁舎の危機管理センターと本庁舎等を接続することにより、災害時における行政機能の連携を強化しました。

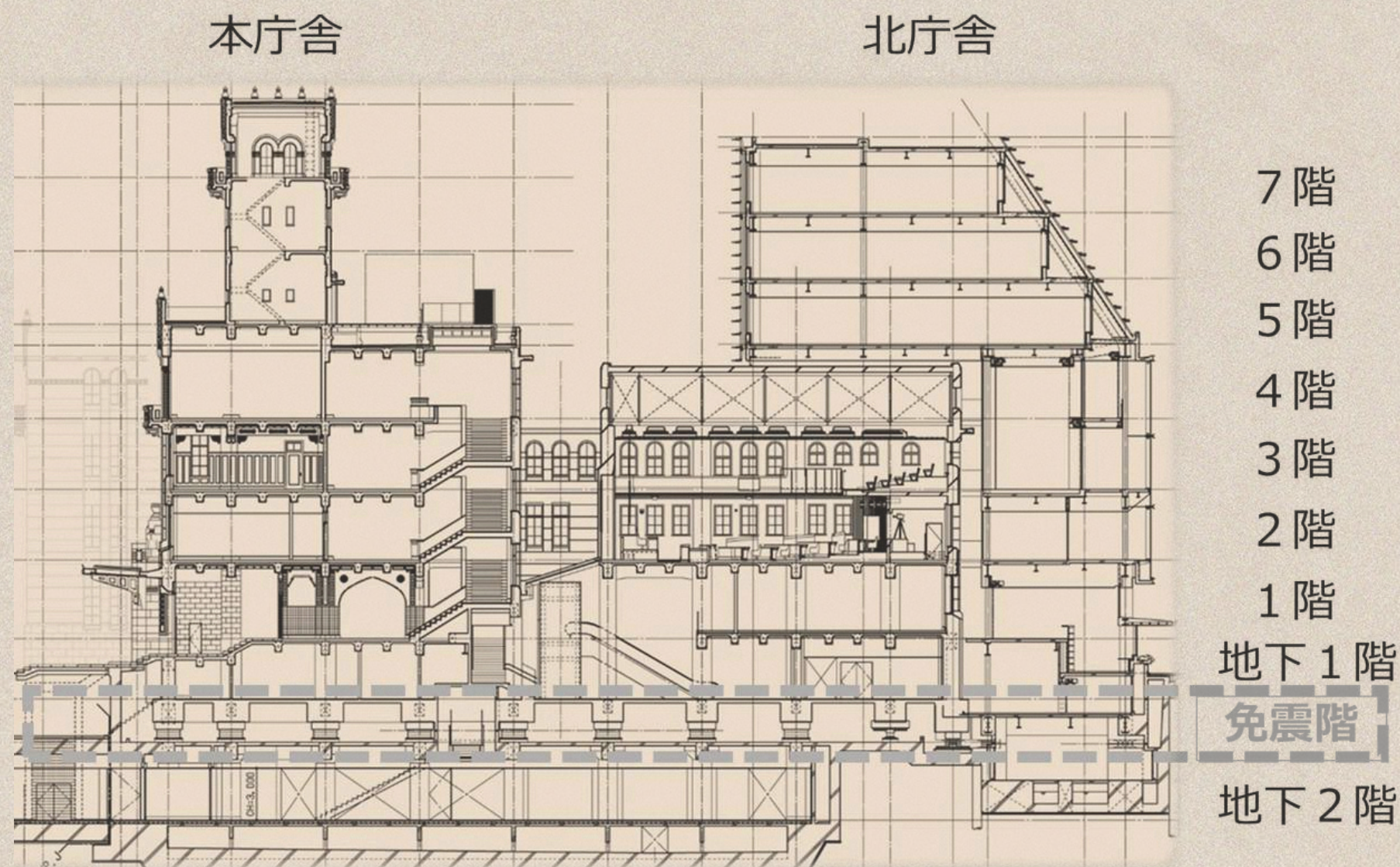
「おもてなし」の心を備えた市民が 利用しやすい市庁舎

Providing Spaces with Sense of Hospitality
to the Public

本庁舎と北庁舎の間には、中庭を東西2か所設け、木々の緑による癒しを提供します。



西側の中庭は、開庁時間中、市民等が自由に出入りできます。



地下に免震層を設け、地震に強い構造を確保しました。

北庁舎1階には市民等どなたでも利用できるフリースペースを設けると同時に、1階から4階の什器に市内産木材「みやこ杉木」を採用することにより、木のぬくもりによるおもてなしの心を感じていただけるエリアとします。

本庁舎及び北庁舎の2階に議会スペースを集約・拡充させるとともに、北庁舎3階には市会オープンスペースを設け、モニターやテーブルセット、授乳室を配置することで、常任委員会等の質疑の視聴だけでなく、どなたでも気軽に利用できるスペースとします。



市庁舎前広場の一部スペースについて、子どもが裸足になったり、転がったりして自由に遊んでいただけるよう、地面を弾性舗装とし、「くつろぎエリア」として運用します。弾性舗装により衝撃の吸収が見込めますので、日常と違った屋外での遊び場などとしても、皆様是非ご利用ください。

KYOTO CITY NEWS

CITY HALL EDITION

庁舎のバリアフリー化

Renovated with Barrier-free Accessibility

各連絡通路により、市庁舎前広場や地下街から本庁舎、北庁舎、そして分庁舎が接続され、庁舎間の往来がしやすくなり、また、エレベーターの設置などによる庁舎のバリアフリー化を実現しました。



北庁舎と分庁舎を連絡通路で接続。バリアフリーでの移動や熱エネルギーの融通が可能に。

本庁舎の歴史的・文化的価値の保存とその魅力発信

Preserving and Promoting the Historical and Cultural Value of the Main Building

国の登録有形文化財にも登録される本庁舎が持つ歴史的文化的価値を保存すると同時に、本庁舎と隣り合う西庁舎の南面や北庁舎の東面をガラスカーテンウォールとすることにより、本庁舎を引き立てる設えとしつつ、東西部分を本庁舎の高さに合わせることで、一体的な外観を形成しています。



北庁舎の市会エリアからは、議場の外壁が間近に見えます。



市庁舎の全景。西庁舎や、北庁舎の東西部分を本庁舎の高さに合わせることで一体的な外観を形成しています。

全国モデルとなる環境に配慮した市庁舎

Eco-model City Hall

平成25年3月にお受けした市会海外行政調査団の御提言等も踏まえ、全国モデルとなる環境に配慮した市庁舎を目指しました。

連絡通路を通じた分庁舎敷地からの熱エネルギーの融通や、井水槽の設置による本庁舎、西庁舎及び北庁舎における井水の熱利用などにより、市庁舎全体のランニングコストについて、整備前からの約4割削減を目指していきます。



壁をガラスにすることで本庁舎の意匠を際立たせています。

外壁の細部に装飾が散りばめられた本庁舎の外観を身近に触れていただけるようにするため、北庁舎中央部の議場の外壁に面した市会オープンスペース等の部屋をガラス張りとし、ガラス越しに本庁舎の意匠を感じていただけるなど、工夫した設計になっています。

北庁舎の押小路通側にはピロティー空間を設け、通りから北庁舎越しに本庁舎外壁や中庭への視線が抜ける開放的な設えになっています。